



1973年3月生まれ。
中央大学法学部卒業・青山学院大学大学院法学研究科修士課程修了。国会議員秘書などを経て2007年から足立区議会議員。夫(弁護士)と長女(高校生)、次女(中学生)の子育て真っ最中。



長谷川たかこ

区議会レポート

日の入りが早まり、朝晩めっきり涼しくなって秋らしい季節になりました。今回、区議会定例会では、災害対策など様々な質問と提案をしました。今回のレポートでは、災害対策について掲載を致します。下記にまとめましたので、是非ご覧ください。

足立区の災害対策

河川はんにんに強い足立区を

荒川、中川、綾瀬川などの河川に囲まれた足立区だからこそ、緊急避難対策を早急に構築すべき



9月の台風18号の影響により、茨城県常総市では鬼怒川の堤防が決壊しました。今回、足立区から近い吉川市にある中川の吉川水位観測所では、氾濫危険水位4.2mの所4.48m、草加市にある綾瀬川の谷古宇水位観測所では氾濫危険水位3.5mの所、3.78mとそれぞれ超過し、区内でも堤防の低い地域などで氾濫する恐れも高まり、荒川でも水位が上がる中で、国交省の荒川堤防決壊シミュレーションを連想された方が多かったのではないのでしょうか。

被害を最小限に防ぐためには、自治体が発令する「避難準備情報」「避難勧告」「避難指示」などの発令のタイミングが重要になってきます。今回の常総市が地区に避難指示を出したのは、決壊の18分後でした。

足立区でも「河川が警戒水位を突破し、洪水のおそれがあるとき」などの規定がありますが、最終的には首長の判断が生死を分けます。

平成16年の水害を受けて、内閣府では避難勧告などのガイドラインを作成し、各自治体に発令基準の策定を呼び掛けています。しかし、およそ4割の自治体で具体的な基準が未策定です。川の水位はもちろんのこと、上流の降水量や上流の水位、過去のデータなどから、ある程度、危険な状態を数値化することが出来るはずですが。

足立区議会議員

長谷川たかこ



1 <避難勧告>発令基準の策定を求めました!

区民が迅速に避難するには、堤防決壊前からの情報提供が重要です。「避難準備情報」の時点で、区外へ即時避難できるよう、日頃からの避難誘導の強化のためにも、「避難準備情報」の周知・啓発活動の徹底を求めました。

2 <緊急避難場所>区内のマンションの階段・踊り場を利用した垂直避難の確保を求めました!

すぐに避難を要する状況であっても、要援護者や車などの移動手段を持ち合わせていない人達に対し、身近な場所で安全に避難場所を確保する必要があります。帰宅困難者対策では民間と協定を数件結んでいます。水害に対する協定は都営や公営住宅のみです。そこで、区内の民間マンションの階段や踊り場の開放を働きかけてもらい、緊急時の避難場所のさらなる確保を求めました。

3 周辺自治体との広域避難の検討を!



荒川の堤防が決壊する恐れのある場合には、タイムラインを基に全区的に区外への避難とされていますが、その具体的な避難経路・避難場所が示されていません。地域ごとによる、具体的な避難経路・避難場所を示すことが必要です。周辺自治体との相互の避難方法や受け入れ可能数の具体化を含めた広域避難について、周辺自治体との協議を求めました。



4 荒川の堤防が決壊する恐れのある場合には、「避難準備情報」の時点ですぐに区外へ避難できる周知・啓発活動の徹底を求めました!

荒川の堤防が決壊する恐れのある場合には、区民への迅速な避難が求められます。「避難準備情報」の時点で、すぐにでも区外へ避難できるよう、日頃からの避難誘導の強化のためにも、「避難準備情報」の周知・啓発活動の徹底を求めました。

災害時の食物アレルギー対応強化を求めました

食物アレルギーがある人や離乳期の乳幼児、高齢者など「食の要援護者」がいることを踏まえ、誰もが安全に食することができるものを基本に備蓄することが必要です。そのため、日頃より自助の備えを十分にし、共助の仕組みを作ることが必要です。

1 食の要援護者の備蓄を求めました

アレルギー対応の食料品や離乳食や乳幼児、高齢者などの食の援護者の食料品を一般の支援物資と混同しないよう保管し、必要な人が利用できる受け渡しの方法を求めました。

2 アレルギーに関する情報担当窓口の設置を求めました

被災時にアレルギーに関する情報を一括して区民に提供する情報担当窓口設置を求めました。

3 アレルギーを持つ子供たち用に常時携帯できる緊急時個人カードの作成を求めました

アレルギーを持つ子供たちが緊急時にアレルギー症状を正確に伝え、救助を求めたり、アナフィラキシーショックや様々なアレルギー症状から命を守るために有効な手段として、緊急時個人カードを区として作成し、その普及啓発を求めました。

4 アレルギーを持つ家族への防災対策のポイントを書いたチラシの配布などを求めました

アレルギーを持つ家族への防災対策のポイントを書いたチラシを配布したり、アレルギーを持つ家族への防災意識を高める取り組みを区として行うよう、求めました。



Manifesto Awards 第5回 マニフェスト大賞
最優秀政策提言賞 受賞

長谷川たかこは本当に必要な所に支援が行き届く社会を全力で構築して行きます。

ご意見・ご要望・プレス民主購読のお申し込みは...

活動や政策の詳細はホームページをご覧ください

長谷川たかこ

<http://www.takahase.com>

ご意見・ご要望は Eメールへ info@takahase.com



このレポートは、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構*のアドバイスのもと、色覚の個人差を問わずご覧いただけるようカラーユニバーサルデザインに配慮して作成しました。(ロゴやイラストは対象外)
*カラーユニバーサルデザイン機構(CUDO)とは、色覚バリアフリー/カラーユニバーサルデザインへの配慮を啓発する活動を行うことを目的に2004年に設立されたNPO法人です。